

8月25日に行われた第14回沼津小学生選手権大会について

沼津市（協会）では千本テニックス（11）・千本ジュニア（40）・原ジュニア（38）の三つの団体が活動しています

県下市町では3団体（89）というのは浜松3団体（99）についで多い数です

14前に発足したジュニア大会は熱心な指導者の下でここまでになったわけですが素晴らしいことだと思います

三つのクラブは年2回（夏・冬）の大会を開催し、お互いにマナー・競技技術や審判技術に切磋琢磨していますが、県大会に出場するといま一步力不足です。今後の精進に期待したいと思います

さて今回の大会で審判のとり方で感じたことを申し上げます

審判員として不慣れな選手には交代して行うことができますが、毎回、補助員をつけて実際に審判を行うことで技術習得をはかっていくことはよいことだと思います

子供たちによくある間違いをあげます

- ① マッチの最初と最後の挨拶は二人の審判員（正審・副審）が審判台を背にして、ネットをはさんで並ぶことです（審判規則23条3）
- ② マッチ終了後は選手も含めて最初トスを行ったネット際（最初に並んだところではない）に速やかに集合することです（審判規則23条12）
- ③ 副審の区画線判定区分でベースラインは入らない（正審のジャッジ区分）。ベースラインのアウトを副審が高々と手を挙げているのを見かけますが、これは間違いです（審判規則8条2）
- ④ 大人の審判に見られたことですが、疲労や暑さからか一方のペアにゲーム間の給水を勧めたことです。当日はゲームごとの給水は認めておりましたが、審判が選手に言うことではなく、選手またはベンチのコーチが判断すべきであります。審判は両方の選手にたいして中立で公正であってほしいと思います（審判規則7条3-エ）

（補足）一般の試合の審判にありがちな、タオルを首からかけての姿や審判台上での足を組むことはありませんでした。さすがジュニアの大会でした

沼津協会審判委員 秋山